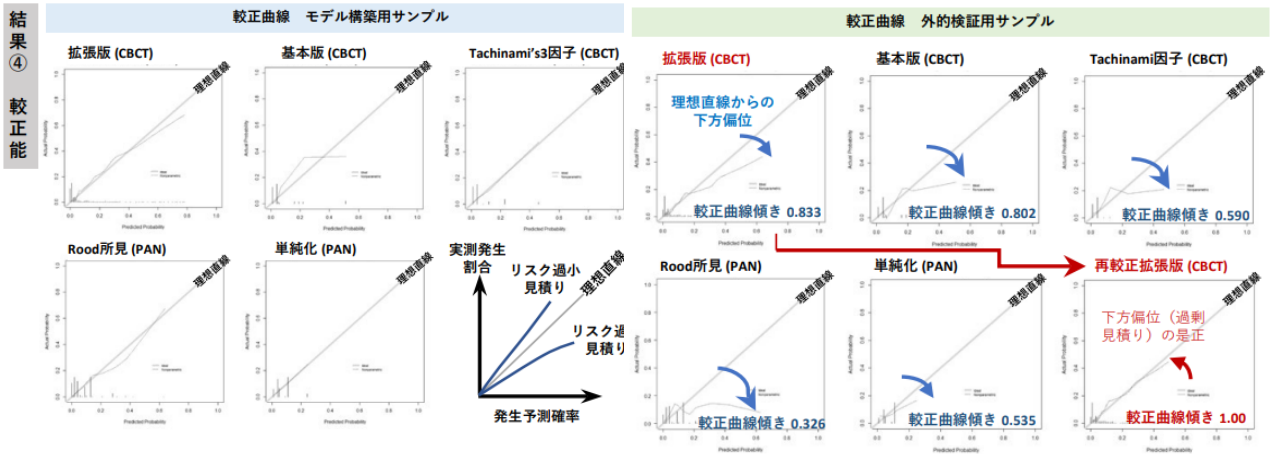
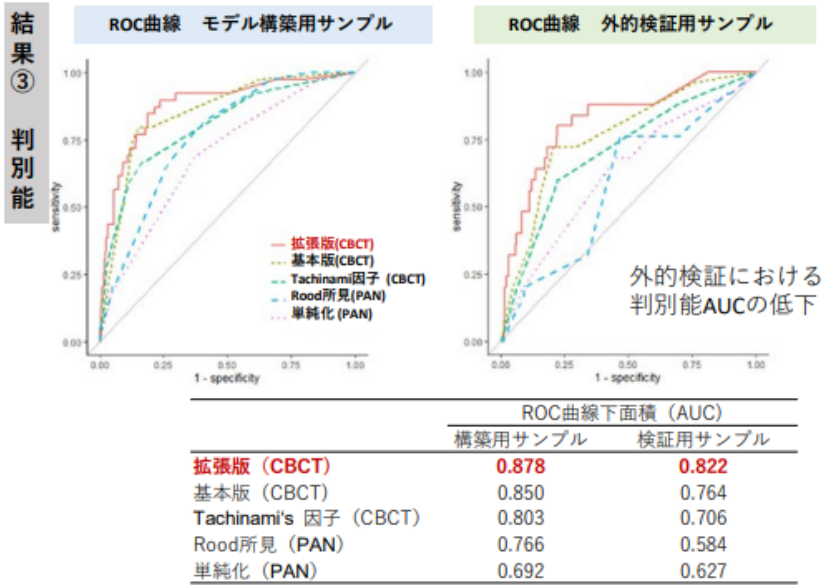


令和4年度 臨床研究テーマ成果報告書

診療科（部）名：口腔外科2
第4期中期目標・中期計画期間中の臨床研究テーマについて該当するものにチェックを入れてください。（塗りつぶし可） <input type="checkbox"/> 1. 「歯科再生・再建医療拠点形成による先進的歯科医療の推進」に関する臨床研究 <input type="checkbox"/> 2. 「オーラルビッグデータ管理体制の整備」に関する臨床研究 <input type="checkbox"/> 3. 「『口の難病』バイオリソースの整備と活用支援の推進」に関する臨床研究 <input type="checkbox"/> 4. 「歯科医学臨床教育の質保証」に関する臨床研究 <input checked="" type="checkbox"/> 5. その他
研究期間：2018年11月5日～2023年9月30日
研究課題名：埋伏智歯の診療実態と抜歯合併症に関する観察研究
研究課題の概要及び成果： <p>【概要】埋伏智歯抜歯は、口腔外科診療において施行する機会が最も多い外来観血的処置である。手技が困難で長時間を要することも少なくなく、術後に疼痛、腫脹などの症状が出現することが多い。また、後出血、ドライソケット、下歯槽神経傷害による知覚異常などの合併症をきたすこともある。したがって、埋伏智歯に対しては、その必要性和抜歯による合併症リスクを勘案し、患者との十分なインフォームド・コンセントを経て方針を決定することになる。そのためには、患者背景、局所要因、治療要因が、どの程度関連しているのかを事前に見積もる必要がある。本研究では、合併症関連要因を検証することで、埋伏智歯抜歯の診療の質のさらなる向上につながると考えられる。</p> <p>【成果】これまで、当科過去10年間の抜歯症例より、知覚異常発生確率算出モデルを報告している（Kubota <i>et al.</i> <i>Odontology</i>; Imai <i>et al.</i> <i>J Stomatol Oral Maxillofac Surg</i>）。今年度は、当科関連施設（市立池田病院）症例による外的検証を行い、良好な性能を保持していることを示した。このことより、上記モデルは下顎智歯抜歯症例に対し、客観性のある術前リスク評価ツールになりうると考えられる。</p> <p>Kubota S, Imai T, Nishimoto A, Amekawa S, Uzawa N External validation of cone-beam computed tomography- and panoramic radiography- featured prediction models for inferior alveolar nerve injury after lower third molar removal: proposal of a risk calculator <i>Odontology</i> 111:178-191, 2023</p> <p><b>優秀ポスター発表賞</b> 今井 智章 窪田 星子 西元 彩乃 雨河 茂樹 鶴澤 成一 下顎埋伏智歯抜歯後のオトガイ神経領域知覚異常：発症予測モデル外的検証とモデル更新 第67回日本口腔外科学会総会・学術大会 千葉 2022年11月</p>

上記概要・成果に関連する図表等



当該臨床研究が「口の難病プロジェクト」に関連しているか否か下記のBOXのいずれかにチェックを付してください。(塗りつぶし可)

- 関連がある
- 関連はない